

2018年(平成30年)

1月12日(金曜日)

毎週(金) 14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)  
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階  
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

## ■ 概況

12/21~12/27のNYMEX・WTIは、58.36~59.97ドルの範囲で堅調に推移した。

12月28日は、EIA週報の原油在庫460万バレル減(6週間連続)報告、米国の厳冬による需要増加観測から反発した。2月限の終値は前日比0.20ドル高の59.84ドルだった。

週末の29日は、年末年始の薄商いの中、ドル安進行に伴う割安感から続伸した。2月限の終値は前日比0.58ドル高の60.42ドルと、2015年6月23日以来の高値を付けた。

年明け1月2日は、北海パイプライン復旧、リビアパイプラインの補修完了の報告等を受け、3営業日振りに反落した。2月限の終値は前週末比0.05ドル安の60.37ドルだった。3日は、イランの反政府デモが拡大、地政学リスクの高まりが認識され、反発した。2月限の終値は前日比1.26ドル高の61.63ドルだった。4日は、イランの政情不安が続く中、EIA週報の米国原油在庫の予想を上回る取り崩し(740万バレル)報告、米国東部の記録的寒波もあり続伸し、2014年12月9日(63.82ドル)以来の高値を記録した。2月限の終値は前日比0.38ドル高の62.01ドルだった。週末の5日は、ドル高進行に伴う割高感に押され、3日振りに反落した。ただ、米国内石油掘削リグ稼働数は前週比5基減の742基で供給増加懸念はやや後退した。2月限の終値は前日比0.57ドル安の61.44ドルだった。

週明け8日は、イラン政情不安、米国東部の寒波、供給過剰懸念の後退等により、反発した。2月限の終値は前週末比0.29ドル高の61.73ドルだった。

9日は、最近の堅調な市況を背景に、一時、3年1ヶ月振りの63ドル台を付けた。2月限の終値は前日比1.23ドル高の62.96ドルだった。

10日は、EIA週報で米国原油在庫が予想を上回る8週連続の取り崩しもあり、3日続伸した。2月限の終値は前週末比0.61ドル高の63.57ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(2月渡し)は、前週62.00~64.10ドルの範囲で堅調に推移した。12月28日64.00ドル、1月4日65.50ドル、5日65.30ドル、9日は65.50ドル、10日66.40ドルで推移した。

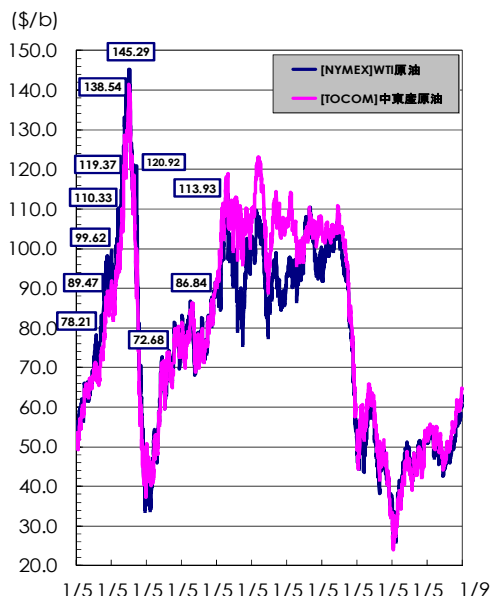
為替は、前週113.22~113.41円の範囲で推移した。12月28日113.48円、29日113.00円、1月4日112.75円、5日112.84円、9日113.16円、10日は112.45円で推移した。

財務省が11日発表した貿易統計(速報・旬間ベース)によると、12月中旬の原油輸入平均CIF価格は、44,074円/klとなり、前旬を1,100円上回った。ドル建てでは62.51ドルで前旬比1.68ドル高。為替レートは1ドル/112.09円。

主要元売会社の1月第2週に適用する卸価格は、第1週分と合わせ、ガソリン、軽油、灯油ともに、全社1.0円の値上がりとなった。原油価格は値上がりし、為替レートは横ばいで、原油調達コストは値上がりとなった。

そのような中で、1月9日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.2円の値上がり、軽油は同0.2円の値上がり、灯油は同0.3円の値上がりだった。ガソリンは3週連続の値上がり、軽油は16週連続の値上がり、灯油も16週連続(18週ベース)の値上がりだった。この週(1月第1週)の原油コストは値上がりし、元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、据え置きと1.0円の値上がりに分かれたが、12月最終週の値上げと合わせ、全社とも、全油種1.0円の値上がりとなった。

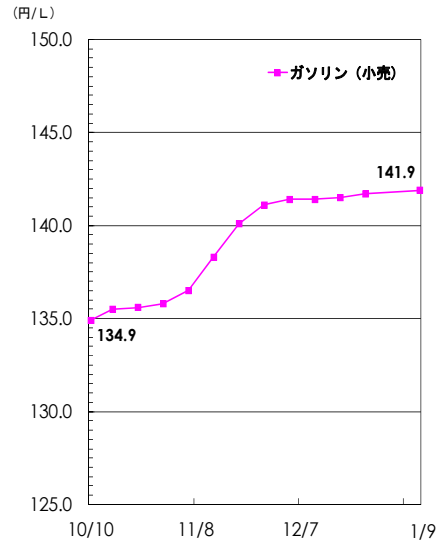
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	12/31 ~ 1/6	3,827 ▼ -8	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	97.7 ▼ -0.2	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	1/6	12,373 ▼ -933	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	1/9	64.67 ▼ -0.25	▲ 12.0
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	1/8	61.73 ▲ 1.36	▲ 9.8
	原油CIF単価 (\$/bbl)	12月中旬	62.51 ▲ 1.68	▲ 15.75
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	44,074 ▲ 1,100	▲ 10,829
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	112.09 ▲ 0.22	▲ 0.95
	外国為替TTSレート (¥/\$)	1/9	114.16 ▼ -0.41	▲ 2.80



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	12/31 ~ 1/6	988 ▼ -202	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	891 ▼ -117	▲ -	
	輸出	"	0 ▼ -239	▼ -	
	在庫	1/6	1,642 ▲ 97	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	1/2 ~ 1/8	60.3 ▲ 1.3	▲ 10.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	1/2 ~ 1/8	59.8 ▲ 1.7	▲ 8.4
		(TOCOM/中部)	1/5	59.5 ▲ 1.0	▲ 8.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/9	141.9 ▲ 0.2	▲ 11.4	

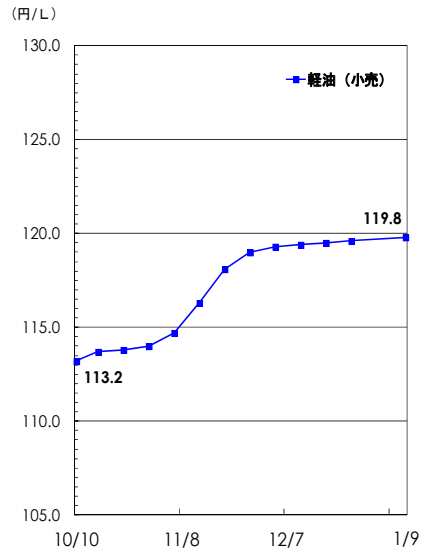
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

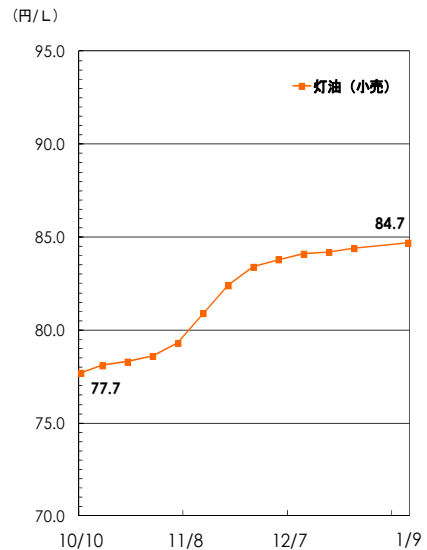
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	12/31 ~ 1/6	696 ▼ -102	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	286 ▼ -297	▲ -	
	輸出	"	146 ▼ -147	▲ -	
	在庫	1/6	1,686 ▲ 265	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	1/2 ~ 1/8	59.9 ▲ 0.9	▲ 9.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	1/2 ~ 1/8	60.0 ▲ 2.0	▲ 14.0
		(TOCOM/中部)	1/5	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/9	119.8 ▲ 0.2	▲ 10.0	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	12/31 ~ 1/6	497 ▼ -23	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	456 ▼ -241	▲ -	
	輸出	"	0 ▼ -48	▼ -	
	在庫	1/6	2,093 ▲ 41	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	1/2 ~ 1/8	62.3 ▲ 1.4	▲ 6.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	1/2 ~ 1/8	63.0 ▲ 2.5	▲ 10.3
		(TOCOM/中部)	1/5	63.0 ▲ 2.8	▲ 10.3
	小売 [週動向] (資工庁公表)	1/9	84.7 ▲ 0.3	▲ 7.6	



■ 関連情報

1 海外/原油

1月10日のNYMEX市場WTI原油は、米エネルギー情報局(EIA)の週報で、原油在庫は市場予想(390万バレル)を上回る490万バレルの取り崩しで8週連続の減少、また、米国産油量も寒波の影響で急減したことに加え、ドル安による割安感、最近の需給均衡の回復に対する期待感から、3日続伸した。ただ、EIA週報で、製品在庫は、ガソリンが410万バレル増(予想は260万バレル増)、中間留分が430万バレル増(同150万バレル増)と予想を上回る積み増しを記録したことが、抑制要因となった。2月限の終値は前日比0.61ドル高の63.57ドル、3月限の終値は前日比0.55ドル安の63.42ドルだった。

EIAによると、1月1日時点のガソリンの小売価格は前週比4.8セント値上がりの1ガロン2.520ドル(75.8円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比7.0セント値上がりの2.973ドル(90.0円/ℓ)。ガソリンは2週連続の値上がり、ディーゼルは2週連続の値上がり。また、1月8日時点のガソリンの小売価格は前週比0.2セント値上がりの1ガロン2.522ドル(75.8円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比2.3セント値上がりの2.996ドル(90.0円/ℓ)。ガソリンは3週連続の値上がり、ディーゼルは3週連続の値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、12月31日～1月6日に休止したトッパー能力は0万バレル/日で、前週に対して横ばいであった(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は382.7万klと、前週に比べ0.8万kl減少。前年に対しては20.6万klの減少。トッパー稼働率は97.7%と前週に対して0.2ポイントの減少、前年に対しては2.1ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてC重油のみが増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/17.0%減、ジェット/28.7%減、灯油/4.4%減、軽油/12.8%減、A重油/23.1%減、C重油/1.9%増。今週のC重油の輸入は0.5万kl(前週比3.1万kl減)。軽油の輸出は14.6万kl(前週比14.7万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比では全油種で減少となった。前年比では、A重油、C重油が減少となり、その他の油種で増加となった。ガソリンの出荷は89.1万kl(対前週11.7%減)と2週連続で減少、5週振り以前年比で増加となり、3週振り以前100万klを下回った。ジェット8.3万kl(対前週27.9%減)、灯油45.6万kl(対前週34.7%減)、軽油28.6万kl(対前週51.0%減)、A重油

14.2万kl(対前週47.4%減)、C重油18.1万kl(対前週12.6%減)。

(単位:千kl)

	今週 (12/31 ~ 1/6)	前週 (12/24 ~ 12/30)	前週比
ガソリン	891	1,008	▼ -117 (-12%)
ジェット燃料	83	115	▼ -32 (-28%)
灯油	456	697	▼ -241 (-35%)
軽油	286	583	▼ -297 (-51%)
A重油	142	271	▼ -129 (-48%)
C重油	181	207	▼ -26 (-13%)
合計	2,039	2,881	▼ -842 (-29%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

1月6日時点の在庫は、全油種で積み増しとなった。前年に対しては、ジェットのみが積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは164.2万kl、前週差9.7万kl増。前年に対しては9.5万kl少ない。

灯油は209.3万kl、前週差4.1万kl増。前年に対しては13.5万kl少ない。

軽油は168.6万kl、前週差26.5万kl増。前年に対しては16.2万kl少ない。

A重油は74.0万kl、前週差8.0万kl増。前年に対しては7.2万kl少ない。

C重油は193.5万kl、前週差5.7万kl増。前年に対しては4.8万kl少ない。

(単位:千kl)

	今週 (1/6)	前週 (12/30)	前週比
ガソリン	1,642	1,545	▲ 97 (6%)
ジェット燃料	969	928	▲ 41 (4%)
灯油	2,093	2,052	▲ 41 (2%)
軽油	1,686	1,421	▲ 265 (19%)
A重油	740	660	▲ 80 (12%)
C重油	1,935	1,878	▲ 57 (3%)
合計	9,065	8,484	▲ 581 (6.8%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

1月2日から1月8日の原油コストは、前々週(12月19日～25日)対比で値上がりし、為替レートはやや円高であったが、原油コストは値上がりしたと見られる。

陸上スポット価格は、12月26日～1月8日までの間、ガソリン113～114円台で値上がり、軽油59円台でやや値上がり、灯油61～62円台で値上がりし推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン115～116円台で値上がり、軽油61～62円台で値上がり、灯油60～64円

台で大きく値上がりし推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン112～113円台で値上がり、軽油58～60円台で大きく値上がり、灯油60～63円台で大きく値上がりし推移した。

元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、据え置きと1.0円の値上げに分かれたが、前週分と合わせると、全社・全油種とも、1.0円の値上げにそろった。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、全油種で値上がりした。

1月第2週(1月11日～1月17日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(1月2日～8日千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは1.3円(12月26日以降では1.1円)の値上がり、灯油は1.4円(同1.3円)の値上がり、軽油は0.9円(同0.6円)の値上がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが1.8円(同1.6円)の値上がり、灯油は3.6円(同3.1円)の値上がり、軽油は1.5円(同1.5円)の値上がりだった。先物価格は、ガソリンが1.7円(同1.5円)の値上がり、灯油は2.5円(同2.1円)の値上がり、軽油は2.0円(同2.0円)の値上がりだった。原油価格は値上がりし、為替はほぼ横ばいで、原油コストは値上がりだった。

1月第2週の大手元売の卸価格は、ガソリンは全社2.0円の値上げ、軽油・灯油は2.0～2.6円の値上げに分かれた。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM)		(単位: 円/%)		
[陸上ローリー 4地区平均]		今週 (1/2～1/8)	前週 (12/19～12/25)	前週比
ス ポ ッ ト 価 格	レギュラー	60.3	59.0	▲ 1.3
	灯油	62.3	60.9	▲ 1.4
	軽油	59.9	59.0	▲ 0.9
(TOCOM)		(単位: 円/%)		
[期近物/終値] [平均]		今週 (1/2～1/8)	前週 (12/19～12/25)	前週比
先 物 価 格	レギュラー	59.8	58.1	▲ 1.7
	灯油	63.0	60.5	▲ 2.5
	軽油	60.0	58.0	▲ 2.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (1/2～1/8実績値)		(単位: 円/%)		
油種	現物	先物	平均	
ガソリン	▲ 1.3	▲ 1.7	▲ 1.5	
灯油	▲ 1.4	▲ 2.5	▲ 2.0	
軽油	▲ 0.9	▲ 2.0	▲ 1.5	
A重油	▲ 1.3			

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

1月9日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週(12月25日)比0.2円高の141.9円、軽油は同0.2円高の119.8円、灯油は同0.3円高の84.7円だった。ガソリンは3週連続の値上がり、軽油は16週連続の値上がり、灯油も16週連続(18%ベース)の値上がりだった。都道府県別に、ガソリンの値上がりは30県、横ばいは7都道府県、値下がり10府県だった。全国最安値は埼玉県(137.1円(同0.4円高)、次が千葉県(137.8円(同0.3円高)、最高値は沖縄県の149.7円(同0.2円高)だった。最も値上がりしたのは、1.5円高の和歌山県(141.5円)だった。

先週(12月19～25日)の原油コストは値上がりし、元売会社の卸価格は、年末以来、ガソリン・軽油・灯油ともに、1.0円

の値上げを行い、3週連続でガソリン小売価格は値上がりした。今週の原油価格は大きく値上がりし、為替レートはわずかに円高となったが、原油コストは値上がりした。元売会社の卸価格は、ガソリンは全社2.0円の値上げ、灯油・軽油は2.0～2.5円の値上げとなった。次週(1月15日)のガソリン・灯油の小売価格は値上がりか予想される。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/%)			直近高値	
今週 (1/9)		前週 (12/25)	前週比			
小 売 価 格	レギュラー	141.9	141.7	▲ 0.2	08/8/4	185.1
	灯油	84.7	84.4	▲ 0.3	08/8/11	132.1
	軽油	119.8	119.6	▲ 0.2	08/8/4	167.4

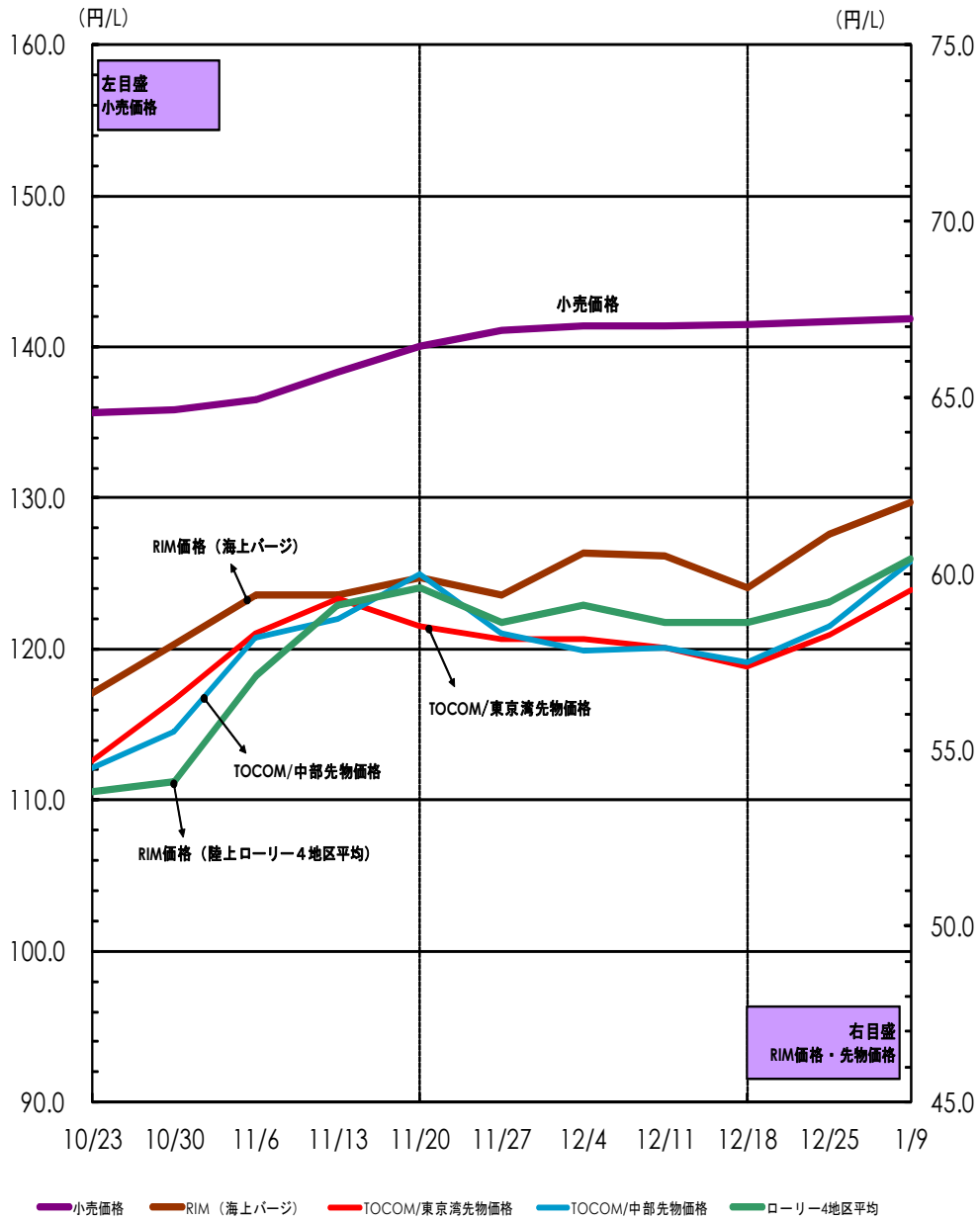
※現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2017/10/23 ~ 2018/1/9)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2017第39号)の公表は、1/19(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成29年9月末現在)は、12月13日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。  
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。  
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。  
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。  
「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。  
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」  
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。  
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。  
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。